9月定例会

平成25年度決算を認定

124億円

復旧 から 復興 へ

一般会計は、約101億1033万円、特別会計は、国民健康保険など６会計合わせて約23億6168万円となり、合計約124億7201万円の歳出決算となりました。

これに対して、歳入決算は歳出決算を約12億1061万円上回る、約136億8262万円となりました。

平成24年度決算額191億6374万円と比較すると27％の減少となります。

監査結果を述べる黒田監査委員

監査委員からの指摘

平成25年度一般会計および特別会計の歳入歳出決算書については、関係諸帳簿および証拠書類と照合した結果、決算計数は正確であり、執行は適正なものと認められました。

広野町の財政状況は、依然として東京電力㈱広野火力発電所における大規模償却資産税への依存度が高い状況にあります。

しかし、大規模償却資産税は年々大幅に減少し、22年度から引き続き普通交付税の交付団体となっています。

平成26年度は、一時的に大規模償却資産分の大幅な税収が見込めますが、その他の税収増は、厳しいものがあります。

今後、保健事業や福祉事業等の成果を再検証するとともに、事業の見直しを図るなど、予防医療、予防介護の充実・拡充に努めて疾病を未然に防ぎ、結果的に歳出の削減につながるような施策を積極的に展開されることを望みます。

9月定例会

平成26年９月定例会を９月16日から19日までの会期で開きました。

今回は、平成26年度一般会計および特別会計補正予算案など、提出された議案を慎重に審議し、原案どおり可決しました。

また、９月定例会は、決算議会でもあり、平成25年度の一般会計および６つの特別会計を認定しましたが、東日本大震災の影響や、今後の財政運営や経費削減に向けた取り組みなどの改善や要望を求める意見が相次ぎました。

なお、一般質問では、８人の議員が、それぞれ町の対応や考えを問いただしました。